

旅する

カジの木

倭文

【監督】北村皆雄

【語り】富永愛

諏訪大社の御神紋

カジの葉のルーツを追うと
衣の原点が見えてきた

天上界から遣わされた二柱の武神は、地上の邪悪な神、草木、石の類のものをみな平定した。
征伐できなかったのは星の神だけだった。
それで織物の神（倭文）を派遣すると服従した。『日本書紀』

名だたる武神が勝てなかった星の神を織物の神 倭文神が従わせる。
なぜ織物の神が勝つのか。

星の神を従わせる力とは何か。

倭文とはどんな織物なのだろうか

助成



文化庁文化芸術振興費補助金
（映画制作費助成事業）
文部科学省文化庁日本文化振興会

【神話出演】 磨き丸十太 磨き丸十太 コムアイ

【倭文制作】 山口源兵衛（監督） 石川文江（脚本）

西川はるな（監修） 藤尾直子（脚本・演出）

【デザイン】 杉浦康平・新保謙吾 【制作】 三浦庸子

【制作・配給】 ヴィジュアルフォークロア

【主権】 氷川劇場映画実行委員会

【共製】 一般社団法人 藤ノ杜

【後援】 さいたま市（申請中）

12/20（土）大宮氷川劇場にて上映

10:15～・12:45～・15:15～・17:45～（上映時間119分）

前売り券1800円（Peatix） 当日券2000円

氷川参道二の鳥居横 Bihl地下1階 埼玉県さいたま市大宮区高鼻町2-1-1



©Visual Folklore Inc.

倭文^{しづり}旅するカジの木

なぜ人は衣をまとうのか――。



©visual Folklore Inc.

チケット購入はこちら



映画予告編



当日現地にてお買い求めいただけます（前売りで満席になった場合は販売致しません）

化学繊維に覆われた現代から衣の神秘的な始源へと遡るドキュメンタリー。日本神話に登場する幻の織物（倭文（しづり））。その白さは光の象徴とされ、邪悪を祓い、身体を護る神聖な力を持つと語られてきた。名だたる武神が屈した星の神を、織物の神・倭文が従わせたとする神話は、なぜ生まれたのか。

鍵を握るのは「カジの木」。

中国南部を原産とし、オーストロネシアンの海の民によって台湾、東南アジア、南太平洋へと運ばれた植物である。日本にも伝わり、縄文・弥生の遺跡からその種子が発見されている。樹皮から繊維を取り、白く輝く布を織り上げた（倭文）は、祈りと光の象徴であった。

本作では、バブアニューギニアやスラウェシ島に残る樹皮布文化を訪ね、古代日本人が織った（衣）の原像を探る。さらに現代の織り手たちがカジの木の繊維を用い、三年にわたって（倭文）の創造的復元に挑む。映像民俗学者・北村哲雄監督が五年をかけて完成させた、神話と植物の旅路。衣が持つ力と祈りの意味を問い直す知的冒険のドキュメンタリー。